

No. 148

# 泉の自治だより

題字 加納 弘夫

発行所 泉町連合区  
 発行責任者 連合区会長 加納 弘夫  
 事務局 (泉公民館内)  
 土岐市泉中窯町 TEL 55-3653  
 編集部長 渡辺 謙二

この二年間を振り返って思ったことと私の使命

泉町連合区会長 加納 弘夫



令和六年の年明け早々、能登半島地震で一年が始まりました。

この紙面をお借りし、お亡くなりなった方々並びに被災された北陸の方々に、心よりご冥福とお見舞いを申し上げます。

もし、このような天災が我が町に起きたら、泉連合区会の会長として何を優先し、行動を起こしたら良いのかを考える新しい年となりました。

さて、自治活動の一年を振り返り、思った事を三ポイントほど述べさせていただきます。

一つ目は、昨年十月開催の泉町スポーツ・フェスティバルと十一月開催の泉町文化祭です。

スポーツ・フェスティバルは、従来の『泉町民運動会』における参加町内会が減少傾向にあったことから、名称と種目内容を大幅に見直し、スポーツの楽しさを知って頂くことを目的として開催しました。



また、泉町文化祭は、昨年度までは泉公民館と泉西公民館をシャトルバスで往復させ開催していましたが、一箇所(セラトピア土岐)に集約し開催することで、ご来場者方の移動と会場設営の省力化を図ることができました。

これらの事業には多くの

課題等がありました。泉町・泉西公民館の方々、泉町スポーツ協会、各種団体の方々

の力強いご支援とご協力により、開催できた事に ついて、心より感謝とお礼を重ね重ね申し上げます。 これらが泉町の方々の、新たなコミュニティの始まりになればと考えています。



二つ目は、役員のなり手不足についてです。多くの地区では、少子化・高齢化や三年にわたるコロナ感染対策等により、自治会活動への関心が希薄となり、さらには定年延長などで、自治会役員の担い手を探すのに苦慮しているようです。各自治会では個々にルー

めていますが、中々と決まらないうちのご意見をよくお聞きいたしました。

この様ななか、令和六年の新役員を引き受けて下さった方々に、心よりお礼とエールを送らせていただきます。

前任役員の方々は、後任役員の方への、フォローやご助言などを切にお願いいたします。また、新役員の皆様には、新年度開始直後から次期役員の構想を念頭に置きながら、事業計画を遂行することをお願いいたします。

三つ目は、災害時についてです。私達自身が何を、どの様に対応したら良いのかを真剣に考えて置かねばならないと感じています。幸いにも昨年の九月二十四日に連合区会主催の図上訓練を開催した際、『泉防災士会』の方々とお出会う機会がありました。防災意識の向上、災害発生後の対応等について泉連合区会へのご助言等を頂けたらと思います。結びに、各区長をはじめ役員の方々、町内会の役員

の方々並びに女性部の方々、まだ任期中であります。この一年間連合区会から、無理を申し上げ、ご心配をお掛けいたしました。皆様のおかげで無事事業を完了することができました。ありがとうございました。



以上長々と述べさせていただきました。ただ、私達が自治活動を更に盛り上げる事が、地域の活力となり、泉町の元気で、明るい町を造り上げる原動力と成ることを、肝に命じ、泉連合区会会長の残りの任期一年間を精力的に動きたく考えています。

**定林寺区会(一)の  
一年間を振り返り  
思うこと**

定林寺区長  
丹羽 和弘

コロナ、コロナでここ数年、定林寺区の行事は全て中止となっていました。その為コロナ前の区長、町内会長、又それに携わる皆さんが続けてこられた色々な活動を次の役員の方伝えていけるか思い悩む日々でした。

副区長二人に相談し、一回目の定林寺区会の時、各町内会長に『各行事が縮小したとしても復活したい』との思いを伝え、お願いをいたしました。

副区長及び町内会長の協力をいただき、ほぼコロナ前の行事を開催する事ができたと思います。

町内活動についても少子高齢化がすすみ将来不安を残す思いです。

それでも十年後二十年後も、定林寺区の伝統行事を未来の定林寺区民の皆様

伝え続けてほしいと思います。

令和六年一月一日に石川県能登半島地震がありました。

いつかは来ると云われる大震災。防災、減災の重要性が再認識されたと思います。このような事態になった時こそ各町内皆さんの協力が必要になると思います。

これからも泉町連合区及び定林寺区の活動にご理解ご協力をお願いいたします。

最後にお世話になりました各町内会長、女性部の皆様、稲荷神社の皆様、墓地



委員の皆様、一年間ありがとうございました。



**令和五年度を  
振り返って**

大富区長  
木股 昭一

今年度のテーマの一つ目は、「明るく住みやすい地域をつくるため、住民協力のもと防災・防犯活動を実施する」、二つ目に「大富区固有の財産である大富山山構想を継続しての取り組み」でした。令和六年の年明けは能登半島地震という大きな災害でした。震災で亡くなられた方々に対して心からの哀悼の意を表すとともに、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

いつ起こるともわからない東南海地震等の災害に、はたして大富区として町内会、行政と連携して安否確認、人命救助と不明者捜索、被災者支援に関わっているだろうか。今回の能登半島地震の被災地を見ていて思いました。防災倉庫の点検、防災意



識の向上、避難行動、要支援者への避難誘導方法の確認、安否確認訓練などを町内会、消防団及び民生児童委員と日頃より協力し、大富区として共助ができる体制を作っておくことが大事と痛感しました。

毎月一回の児童・生徒の登校時交通安全指導は、各町内会長の協力もあり継続することができました。泉公民館前での交通安全指導は交通量も多く、且つ変則交差点のため油断がならない場所です。多治見警察署のパトロール強化、スクールサポーターの方の交通安全指導の応援もありますが一刻も早い交差点改良が必要です。



次に、大富山里山構想ですが、地球温暖化により、「これまで経験したことがないような集中豪雨」で美佐野街道もその影響を受けて街道が雨に洗われ、散策が困難な箇所も見受けられます。今後多く方に親しんでいただくために整備を続けていこうと考えます。

事業計画は四年ぶりにすべての行事を復活しました。特に夏まつりは猛暑の中でしたが、四年ぶりに開催したこともあり多くの方にお越しただき大盛況でした。



年々暑くなる中で開催時間を検討する必要があると思います。また、多くの町内で夏まつりが開催できなかつたことは残念なことでした。

来年度の大富区加入世帯数予定は、二一〇九世帯増となりました。各町内におかれましては一世帯でも多く加入されるよう取り組みをお願いします。

最後に一年間のご支援・ご協力に感謝を申し上げます。いさつとさせていただきます。



十年振りに二度目となる駅前区長をまかせられることになり、「喜寿」を迎えようとしている自分で、無事一年間やり遂げられる、だろうかと、少々不安な思いのスタートでありました。

予想していたこととはいえ、新町内会長は、二廻りも下で、少々後ろめたい気持ちもあつたものです。しかし、年間を通して彼等の力強い支援を受け、諸々の事業をやり遂げてくれました。

感謝、感謝の気持ちで、お礼の言葉もありません。また、皆さんの「まちづくり」に対する熱い思いを感じた一年でした。

一、夏祭りのイベント事業について

今年は四年振りに花火大会が開催されることになり、私たちもコロナで五年の間「駅前盆踊り大会」を中



止していましたが、協賛事業の一環と位置付け、七月二十二日(土)盛大に盆踊り大会を開催することにしました。久しぶりに「ゆのみ里」に明りが点り、老若男女、子どもたちも含め予想外の多くの人が集まり、夏の夜を楽しんでいただきました。明けの二十三日(日)には、駅前区民館、三起屋様駐車場の二会場で、子供縁日、ホラーバスなどを開催、三百人を超える子どもたちで大賑わい、夏休みの楽しい思い出作りの場を提供できたように思っています。



## 二、駅前区の定住人口増加の取り組み

昨年春の泉の自治だよりで「駅前区の空洞化問題」に触れさせていた、皆さまに。市が令和六年度事業として、まちなか定住人口の増加を推進するため、不動産関係、地元企業、地域住民へのアンケート調査を展開しました。将来的に「まちの活性化」に役立てようとするもので、私達も積極的に協力して参りたいと考えております。

## 三、(仮)泉町公共施設整備促進協議会について

泉町公民館新設事業を含め、従来の実現されてい



い事項の見直しを行い、市議団と連合区の連携を密にして行政への要望を強力に推進していただきたいと思います。四、おわりに

加納会長はじめ連合区の役員の方々、最年長者の私に何かとご配慮いただきましたこと

とに対し心よりお礼を申し上げます。ありがとうございます。益々の発展を祈念いたします。

## 泉の自治だより 令和五年度を振り返って

久尻区長 大野 昭彦

長い一年が間もなく終わろうとしています。

昨年六月発行の泉の自治だよりにて区内をゆつくり訪ねてみたいと書きましたが、日常に追われ訪ねることができませんでした。反省です。



四月からは少し時間ができそうなので、二年がかりではありますが、区内、泉

町内、さらには土岐市内をゆつくり訪ねてみたいものです。そこには四季折々の風景があると。さて、ある雑誌に金言名句「キョウイク」と「キョウヨウ」という記事がありました。教育と教養の話かと読んでいくと、



久尻神社 津島祭 茅の輪くぐり

全国町村会サイト、マスコミのコラム等で引用されていると、ご存じの方もいらっしゃると思います。この「キョウイク」と「キョウヨウ」は今日行く先があれば良し、今日用があれば良し、です。

私も、高齢者になり、出かけることよりも自宅でのんびりと過ごすことが良いと思えるようになってきました。こんな時こそ、今日は花見に行く、野球観戦に行く、夏祭りに行く、花火を見に行く、スポーツフェスティバルに行く、



久尻神社 例大祭

文化祭に行く、新年歩け歩けに行く、消防の出初式に行く、神社の参拝に行く、節分に行く、初午祭に行く、等一年を通していろいろなイベントがあり、参加することは良いのではと思います。またボランティア活動をする等自ら用意を見つけてことです。それが元気で毎日を送ることになると思います。

この一年多くのイベントがありました。それに携わり、参加することができましたことは忙しかつたし、時には疲れましたが、元気で一年を過ごすことができました証だと思えます。感謝申し上げます。また、久尻区の活性化のために共に活動してくださった皆様ありがとうございました。

最後に、新年早々能登半島地震がありました。被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

改めて、防災に対する意識を高めていかななくてはと思う次第です。

### 令和五年度を振り返って

河合区長 永井 幸保

年度初めはコロナが落ちて世の中が動き出した時期で、「今年度はすべての行事を再開します。」と公言したものの、三年間のブランクは大きく何をどう始めていくのかも分からず手探り状態で始まりましたが、諸先輩方の助言を頂きながら一年間努めてきました。

一年間を通じて特に意識して取り組んだことは、区民からの困りごとや相談があれば直ぐに足を運んで現地を確認し、話を聞く姿勢を徹底したことです。次に業務の効率化を行い役員の負担軽減に取り組みました。

役員の高齢化に伴い、草刈り等の奉仕作業が非常に重荷になっていくため、草刈り機の数や担当箇所、配置、応援体制など全体のバランスを考え随時変更し作

業時間の短縮を図りました。また安全確保を最優先に考え、今まで無理をして行っていた危険箇所は中止しました。そして会議の開催についても議題の少ない会議は中止とし、文書でお知らせするなど役員の出席日数を減らすことも行いました。行事の中で一番力を入れたのは夏祭りです。四年ぶりの開催となりましたが、お祭りに懸ける想いは皆同じで、知恵を出し合い何度も計画を練り上げ準備をしました。

大はしゃぎする姿を見てみると本当に良かったと、心からそう思いました。



その甲斐あって久しぶりに大勢の人が集まり、盆踊りや各種出し物など誰もが楽しめるお祭りが盛大に開催出来たと思っています。中でも子供たちが大喜びしたのが、巨大バルーンの中で飛び跳ねて遊べるふわふわドームです。初めての試みであり設営から事故防止、熱中症予防等多少の不安はありましたが、担当した役員が良く考えて万全な対策を施してくれたことで、安全で楽しく遊ばせることが出来ました。子ども達が

もう一つ良かったのは役員全員が夏祭りに着るオリジナルTシャツを製作したことです。製作するにあたって、河合区にある東濃特別支援学校の印刷班担当の講師にデザインを見せ相談したところ、このTシャツを生徒の訓練で製作するというので快く引き受けて頂きました。細かな要望が多いにも関わらず丁寧に対応して頂き、出来上がったTシャツはとても素晴らしい出来栄で評判も良く、それでいてかなり低コストで製作することが出来ました。協力して下さった学校及び講師、生徒の方々には本当に感謝いたします。どの行事についても一年を通じて思い通りに出来た

とは思いますが、細かなところまで課題も見えてきたので、それを今後引き継いで更に良いものにしていきたいと思います。この役を頂いたことで今までご縁のなかった方々とお話する機会があり、多くのことを学ばせて頂き感謝しております。



最後に、私の思いを理解して頂き一緒に頑張ってくれた役員の方々には大変感謝しております。一年間本当にありがとうございました。

### 女性部の活動を振り返って

泉町連合区女性部長  
山内 悦子

今年コロナも落ち着き色々な行事をスタートさせる事となりました。

各区、各町内での夏祭りでは子ども達が暑い中楽しんでる姿を拝見しました。

泉中学校で行われた泉町スポーツ・フェスティバルには家族連れやスポーツ好きな方々が多く集まりました。体育館、グラウンドでそれぞれの競技を体験してスタンプを集め、袋いっぱい景品を笑顔でもって皆さん帰って行かれました。十一月にはセラトピア土岐で泉公民館、泉西公民館合同の泉町文化祭が盛大に行われました。連合区女性部では五平餅六〇〇本を用意小学生以下の子も達対象にお菓子釣りゲームを楽しんで頂きました。沢山のお菓子を釣りたくて頑張る子

どもさん達に中学校のボランティアのお姉さん達が応援したり、親子で協力しながら何個も釣ったり、あつという間の三十秒でしたが当たりくじもあり楽しんで



頂いたと思います。五平餅もとても好評で各地区の副部长達の協力もあり、たくさん焼いて美味しく召し上がって頂きました。



元日には五十四回目の歩け歩け大会が行われ土岐市駅から五二キロを泉西公民館まで歩きました。天気に恵まれ一緒に歩いた方と喋りしながら楽しく初参加しました。

最初の頃は何をすればいいのか不安でいっぱいでした。周りの方に助けられ、相談して何とかやってこられました。

区会に参加させていただく中で、役員選出や町内会脱退の問題の深刻さを知り、また、ゴミ分別のモラルの実態を聞くなど、悲しくなるお話もありました。役員の方々は本当にご苦労様です。

こうした問題も地域に住む一人一人が自分のこととして捉え、誰もがもつと気軽に役員を引き受けられようになればと思います。自治会をはじめ、いろいろな方の協力があり、全てが成り立っているのだと改めて感じます。貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。

### 年度末 各神社行事

▼久尻区・駅前区久尻神社 ◎節分祭  
二月四日久尻神社で節分祭がありました。県でも珍しい弓を放ち難を解く「追儺式」も執り行われました。



- ◎初午祭・餅投げ  
三月十日開催
- ▼河合区・八幡神社公民館  
◎祈年祭・餅投げ  
二月二十五日開催
- ▼大富区・白山神社  
◎初午祭・餅投げ  
三月十日開催
- ▼定林寺区・稲荷神社  
◎初午祭・餅投げ  
三月十日開催

# 泉町歩け歩け大会

## 令和六年元日

令和六年元日、泉町・文化スポーツ協議会主催による「泉町新年歩け歩け大会」が、快晴のなか開催されました。

午前十時にスタート地点となる土岐市駅前駐車場にて、出発式が行われ、途中、泉小学校、定林寺区内の廿二夜碑跡で折り返し、窯公園や大徳原球場を経てゴールとなる泉西公民館ま



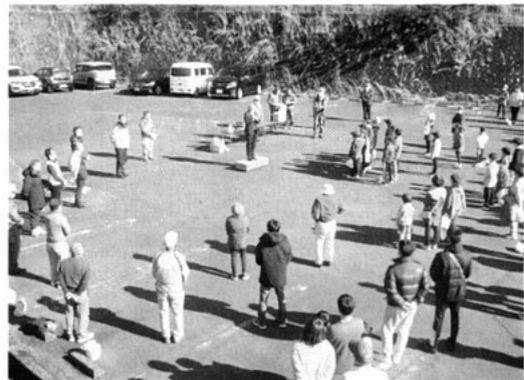
での約5kmを一時間半ほどかけて二百名弱の参加者が完歩しました。



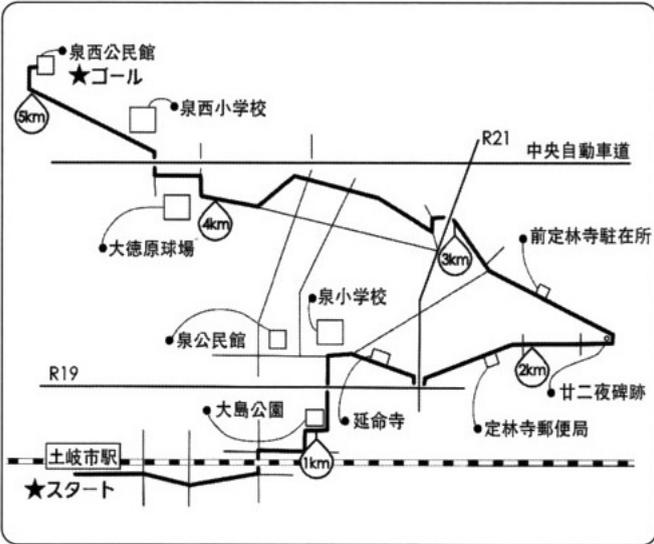
公民館では、完歩証とこ褒美のお菓子が配られ、賞品のくじ引きも行われました。

今年、今回のイベントを皮切りにスポーツや文化の催しがコロナ以前の様に復活や進化することを願うばかりです。当日は加

藤市長や山内県議を始め代表市会議員の皆さんも応援に駆け付けました。



市長による挨拶



# 泉町と天然ウラン

今から六十年程前、日本はエネルギー資源確保のため、原子力発電計画など具体化を進め、必要なウラン資源の調査・確保を原子燃料公社（現・日本原子力研究開発機構以下東濃地科学センター）が進めていました。

旧文化会館に展示されている化石レプリカ標本「パレオパラドキシア・タバタイ（デスモスチルス）」が一七〇〇万年程前に生息していました。「パレオパラドキシア・タバタイ」は海浜をカバのように歩いたり、水中に潜ったりする生き物で、その時代、泉町は海の中であつたことがわかっています。

国内では、測定器を載せた車等による調査が行われ、島根県と岡山県境の人形峠付近、そして土岐市泉町を中心とした東濃地区に国内最大級のウラン鉱床が発見されました。また、昭和三十七年に定林寺の国道二一

号線付近にウランを多く含む露岩が見つかったことがきっかけで、泉町で東濃地科学センターにおける研究開発がはじまることとなります。

ウラン鉱床は今から一〇〇〇万年ほど前に川や湖、海に堆積した砂や泥の中に形成されたと考えられています。

こうしてできた東濃地域のウラン鉱床ですが、燃料として採掘した場合採算が合わないことが分かったため、採掘することなく、ウラン探鉱を終了しています。しかし、人形峠周辺では、ブラックライト（紫外線の一種）をあてると魅力的な緑色に光る「ウランガラス

「工芸」生まれであり、泉町も何かウランを利用した商品ができないかと思えてしまいます。

現在、定林寺にある東濃地科学センターでは、原子力発電に伴って発生する「高レベル放射性廃棄物」の地層処分技術に関する研究開発のうち、「地下深部における地質環境の特性や長期の安定性などについての研究開発」を行っています。

地層処分を行うためには、火山や地震・断層活動、隆起・沈降など自然現象の影響を受けない安定した場所を選ぶことが重要です。

そのため、それら自然現象が「いつ起きたのか」、「どこで起きるのか」などを知る必要があります。自然現象の影響のない安全な場所を探す調査技術の開発や加速器などの分析機器による年代測定技術の開発を行っています。

東濃地科学センターでは、施設見学を受け入れており、気軽に申し込みくださいとのことです。訪問から「ウランコミュニ

ニティ」が始まり、太古から現在までの泉町の歴史が少しずつ紐解かれる気がします。



### 編集部だよ



「コミュニティの回帰」をテーマにこの一年、泉町の活動のあるところできる限り歩き取材編集させていたいただきました。泉町関係者ほか皆様ご協力ありがとうございました。

この四年、新型コロナウイルスの影響で多くのコミュニティ活動が停滞していましたが、今年度、区関係者悩みの中、その努力と町民の熱意・協力で、夏祭りほか多くの行事が開催され、コミュニティの回帰へとつながりました。次年度はさらに充実させると関係者の意気込みをお聞きしております。

昨春秋、土岐市泉町出身の若尾政希・一橋大学大学院教授が市民大学講座「天変地異の思想」の講演がありました。新型コロナウイルスのパンデミックは収束のあり方が明確になる中、共存とともに社会生活に必要な活動を再開しながら将来的に新興感染症の脅威に強靱な社



講義テーマ  
「天変地異の思想」  
一橋大学大学院教授  
若尾 政希 先生

会構築を模索しています。そのため現在国レベルで必要な記録を公文書としてまとめようとされています。

難しい内容でしたが、記録を後世に残すことの大切さを感じました。少しでも若尾氏と直接会話をする機会ができました。会話

「新型コロナウイルスで影響されたこの四年余りを忘れないでほしい。またそのため記録を残そうとしている」と言われたことが心に残ります。今年度、泉町はコミュニティの回帰へと一歩を踏み出したと思いますが、その根底にはまだ新型コロナウイルスの共存の必要性があることを強く感じさせられました。

来年度はそれらを踏まえさらに泉町は充実、魅力ある町になると思います。

令和五年度の「泉の自治だより」も本号が最後となりますが、コミュニティ活動が少しでも泉町約一八〇〇〇人に伝われば幸いです。

### 謝辞

十二月十五日発行「泉の自治だより」発行No.を147号のところ148号としてしまいました。お詫びいたします。

